



迷宮+美術館

—コレクター砂盃富男が見た20世紀美術—

迷宮+美術館 コレクター 砂盃富男が見た20世紀美術
2006年10月31日(火)～12月10日(日)

開館時間：午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日：11月6日(月)、13日(月)、20日(月)、24日(金)、27日(月)、12月4日(月)
入館料：一般300円(240円)、小中学生100円(80円)
*()内は10名以上の団体料金、60歳以上の方および障害者の方は無料、毎週土曜日は小中学生無料

+ 講演会「友人砂盃氏の思い出とコレクション」
11月4日(土) 午後2時～ 講師：佐谷和彦氏(佐谷画廊主)

写真：ハルト・オヒエ(オスロから来た若い女) 1993年

迷宮十 美術館

コレクター砂盃富男が見た
20世紀美術

- 1 ヴォルス《心臓》
©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2006
- 2 中川幸夫《花坊主、はなぼうず》1973年
- 3 松沢有《ブサイの絵画》1963年頃
- 4 ジョアン・ミロ《スペインを救え!》1937年
©Successió Miró-Adagp, Paris & SPDA, Tokyo, 2006
- 5 ロベルト・マッタ《ホメロスI》1973年
©ADAGP, Paris & SPDA, Tokyo, 2006
- 6 秀島由己男《われらにさきかけてきたりしもの》1997年

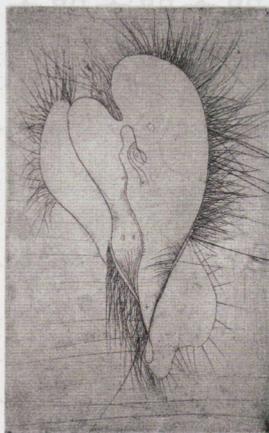
コレクターであり、美術評論家であり、制作者であり、銀行員であった砂盃富男のコレクションを紹介します。「みる眼」と「その気」を継続しつづけた40年におよぶ成果です。

戦争惨禍にたいする美術やシュルレアリスムにつよい関心をもつコレクションは、迷宮的／幻想的なイメージをたたえたものです。作品を追い求める行動力、作家にむける旺盛な好奇心、それらの渦巻く想いがコレクションとして結実しました。

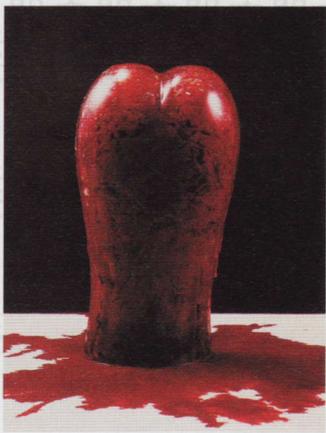
あるときは、クリストの梱包イベントのためにベルリンに旅立ち、またあるときには松沢有のアトリエ「ブサイの部屋」に入りました。三木富雄の《耳》はジャスパール・ジョーンズから危うく守られ、瀧口修造ばりのデカルコマニーを制作していました。ピカソ、コルヴイツ、サビエの戦争を思い、ヴォルス、マッタの精神の内奥に魅せられたのです。

美術品は広く公開するものであるという考えから、前橋の自宅を改装して「ベル・イマージュ・ミュージゼアム」という、小さいながらも美術館を実際につくりました。窪島誠一郎のことばに、「人はこころのなかにひとつつつの美術館がある」とあります。コレクター砂盃富男が自らの美術館で見ようとした20世紀美術とはどのようなものだったのでしょうか。

400点を越える版画を中心とし、質量ともに充実したこれほどの個人コレクションは、ほかに類をみない貴重なものです。本展はその中から、国内外の20世紀以降の作品約130点を選んで展示します。



1



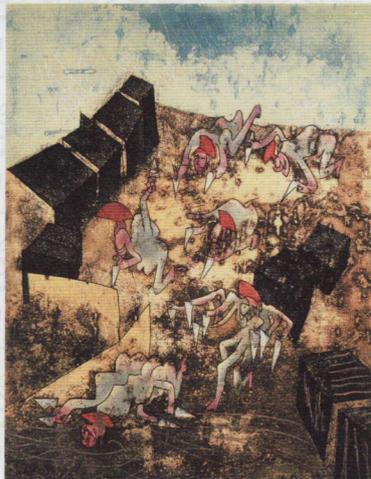
2



3



4



5



6

関連事業

講演会「友人砂盃氏の 思い出とコレクション」

11月4日(土) 午後2時～

講師：佐谷和彦氏(佐谷画廊主)

美術相談

11月11日(土) 午後2時～4時

講師：宮田翁輔(洋画)

舟橋淳司(水彩画)

12月2日(土) 午後2時～4時

講師：西嶋俊親(洋画)

水野道子(水彩画)

＋ ガラリートーク

11月10日(金)、12月1日(金)

午後2時～

当館学芸員が会場をご案内いたします。

＋ 美術映画会

11月12日(日) 午後2時～

「生成する色彩 加納光於の世界」

「ピカソのカラージュ 1912-13年

実践と論争シリーズより」

12月3日(日) 午後2時～

「クリスト：制作中」

交通案内

＋ JR渋谷駅下車徒歩15分

＋ 京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

問い合わせ先

＋ 渋谷区立松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART
〒150-0046

東京都渋谷区松濤2-14-14

Tel. 03-3465-9421

Fax. 03-3460-6366

<http://www.city.shibuya.tokyo.jp/>

渋谷区立松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART

